

農作業 テクニカル ダイアリー

Agricultural-work

technical diary



水稻

販売開発部 営農振興課
営農指導員 石井 枝里奈



表② 主な用土消毒剤

薬剤名	適用病害					
	もみ枯細菌病	苗立枯細菌病	褐条病	いもち病	リゾープス菌	ピシウム菌 ^{*3}
フタバロンA粉剤	○	○	○	○	○	
ダコニール粉剤					○	
タチガレエースM粉剤(液剤)					○	○
タチガレン粉剤(液剤)					○	○

*3…写真③参照

表① 主な種子消毒剤

薬剤名	適用病害					
	もみ枯細菌病	苗立枯細菌病	褐条病	ばか苗病	いもち病	リゾープス菌 ^{*1}
ヘルシードTフロアブル	○		○	○	○	○
トリフミン水和剤(乳剤)				○	○	
スバルタック乳剤				○	○	
カスミン液剤	○	○	○		○	
エコホープDJ	○	○	○	○	○	○

*1…写真①参照

*2…写真②参照

表④ ジャンボタニシに登録のある農薬

薬剤名	使用時期	使用量 (10a当たり)	使用回数	効果
スクミノン	収穫60日前迄	1~4kg	2回以内	殺貝 食害防止
スクミンベイト3	発生時	2~4kg	制限なし	
ジャンボたにしづん	収穫60日前迄	1~2kg	2回以内	
パダン粒剤4	収穫30日前迄	3~4kg	6回以内	食害防止

表③ 温度管理の目安

日数	出芽 (無加温)		緑化	硬化
	被覆下 の気温	昼	2~4日	15~20日
被覆下 の気温	20~30°C	20~25°C	25°C以下	
夜	10~20°C	10~20°C	5~10°C	

参考：千葉県稻作標準技術体系

12月の分析経過について

多成分一斉分析 残留農薬分析点数	合計1点	
	イチゴ	1点

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壤診断点数 合計74点



写真③ ピシウム菌による坪枯れ
(地際にカビが見られない)



写真① リゾープス菌
(箱の表面に白いカビ)



写真④ 取水口にネットを設置
(写真提供：山武農業事務所)



写真② トリコデルマ菌
(地際や糞まわりに白色～青緑色のカビ)

種子消毒には、温湯消毒・化学合成農薬・微生物農薬を使用する方法がありますが、最近、被害報告の増えているばか苗病にはヘルシードTフロアブルが効果的です(表①参照)。

浸種は積算水温100°C(例..水温15°C×6~7日間)を目安に行いまが、この時、水温20°C以上では細菌性苗立枯病の発生を助長してしまうので注意しましょう。

●用土の準備
細菌性苗立枯病(細菌が原因の種子伝染性病害)や苗立枯病(カビが原因の土壤伝染性病害)を防ぐため、薬剤防除を行いましょう(表②参照)。

育苗期の温度管理

病害発生や生育不良を招かないよう、育苗シートの被覆やハウスの換気をこまめに調整し、適正な温度管理に努めましょう(表③参照)。

●太陽シートについて
高い遮熱性により、出芽するまで日中の換気作業が必要なくなるという省力的な水稻育苗用シートです。近年、使用する人が増えていますが、その使い方には注意が必要です。

3月頃の寒い時期の播種では、シート下の温度が上がり出芽までに時間がかかり、その間に換気をしないでいるとカビが発生する場合があります。被覆中に冷え込みが予想される場合は、太陽シートよりも保温効果の高いミラーシート等をかけて保温します。

トトの温度が上がり出芽までに時間がかかり、その間に換気をしないでいるとカビが発生する場合があります。被覆中に冷え込みが予想される場合は、太陽シートよりも保温効果の高いミラーシート等をかけて保温します。

ジャンボタニシ対策

ジャンボタニシ(正式名..スクミリングガイ)被害に対して最も効果がある対策は、稻刈後に①湛水状態で石灰素を散布する、②早めに稻ワラを鋤き込むこと(稻ワラ分解促進材を使うとより効果的)です。

しかし、今からできる対策もあります。ジャンボタニシの発生数が多い圃場では、薬剤防除のみに頼らず、耕種的防除と組み合わせて被害を軽減させないようにしましょう。

対策1 厳寒期に耕運

丁寧に耕運(走行速度は遅く、回転数は速く)することで、水田内で越冬中の貝を破壊します。また、田面に出して寒さにあてる(ひ)で殺貝します。

対策2 入水時の侵入防止

代かき等の入水時、用水路やパイプ管の中で越冬したジャンボタニシが水田内へ侵入するのを防ぐため、取水口に金網やネット(目合い5ミリ以下)を設置します(写真④参照)。

対策3 田植え後の浅水管理

田植え後2週間程度は、なるべく浅水管理を心掛けましょう。水深7センチ以上の深水管理では、被害が拡大するおそれがあります。

対策4 薬剤防除

4月頃から越冬貝が活動を始め、5月中旬以降は活動が活発になります。水田内にジャンボタニシが侵入してしまっている場合、殺貝または食害防止效果のある薬剤を散布し、被害軽減に努めましょう(表④参照)。

●播種・育苗管理の注意点

●種子の準備

高い遮熱性により、出芽するまで日中の換気作業が必要なくなるという

●太陽シートについて

●厳寒期に耕運